資料

エムスラント原発前で15日、「原発がついに終わる」と書かれた横断幕を掲げて喜ぶ反原発団体のメンバーら＝ドイツ北西部リンゲン

ドイツ全原発停止 なお課題

2011年の東京電力福島第一原発事故を受けて「脱原発」を進めてきたドイツで15日、最後の原発3基が稼働を終えた。60年以上続いたドイツの原発の歴史に幕が下りた。今後は廃炉作業を進めるが、高レベル放射性廃棄物の最終処分場が決まっていないなど、原発の後始末には課題が山積している。

停止したのはドイツ北西部のエムスラント原発、南部のイザール原発、南西部のネッカーウェストハイム原発の3基。15日にいずれも送電網から切り離された。

「歴史的な日だ」。北西部ニーダーザクセン州リンゲンのエムスラント原発前では同日午後、反原発団体メンバーら約200人がデモ行進し、集会を開いた。メンバーのなかには、シャンパンで最後の原発の稼働停止を祝う姿もみられた。

集会に参加した同州政府のマイヤー環境・気候保護相は「ドイツにとって歴史的で特別な日だ。（ドイツが脱原発に進むにあたって）福島の原発事故が決定打になった。今後は風力や太陽光などへの転換を加速させる」と話した。

反原発のデモに参加してきたクリスチャン・フェルカーさん(56)は「放射性廃棄物が安全に処分できるかどうかの問題がある。原発との闘いはまだまだ終わらない」と語った。

廃炉に10～15年 最終処分場も未定

原発の後始末には時間がかかる。政府によると、1960年の原発稼働以来、ドイツで廃炉を終えたのは3基のみで、今後、30基超の廃炉作業を進める必要がある。今回停止した原発も含め、廃炉には少なくとも10～15年はかかる見通しだ。高レベル放射性廃棄物の最終処分場も決まっていない。政府の委員会が2016年にまとめた報告書では、廃炉や放射性廃棄物の処分などに、488億ユーロ（約7兆円）の費用がかかるとの試算が出ている。

福島第一原発事故を受けてドイツ政府は11年6月、稼働していた国内17基の原発を22年末までにすべて止める方針を決めた。しかし、ロシアのウクライナ侵攻を受けたエネルギー供給の不安などから、原発の稼働期間を今年4月15日まで延長していた。

昨年のドイツの電源に占める原子力の割合は6％。一方、再生可能エネルギーの割合は44％だが、さらに増やし、30年までに国内電力消費の80％を再生可能エネルギーでまかなう方針だ。

（リンゲン＝寺西和男）

出典：2023 年 4 月 18 日付『朝日新聞』朝刊